



岩手県ホームページでも
ご覧いただけます ▼



美しい 県土づくりNEWS

2025年
11月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第244号
令和7年11月26日発行
編集 県土整備企画室

目次

- 2 岩泉 平成28年台風第10号災害事業が完了！
- 5 北上 国道107号大石トンネル11月30日に開通！
- 7 県北 案内〜戸呂町口工区 体験型現場見学会開催！
- 9 盛岡 上鶴飼の沢砂防堰堤が完成！
- 11 宮古 中学生 土砂災害出前講座・工事現場見学開催！
- 12 建振 いわて建設業みらいフォーラム2025開催！
- 14 空港 いわて花巻空港スカイフェスタ2025開催！
- 15 宮古 「みやっこタウン」に出展！
- 17 道建 岩手の地域づくり・道づくりを考える大会開催！
- 19 道環 道路愛護団体感謝状伝達式・贈呈式開催！
- 20 河川 馬淵川上流を特定都市河川に指定！
- 22 二戸 北いわてで活躍する女性技術者を紹介！
- 24 岩手 除雪支援システム〜除雪DXが拓く建設業の未来〜
- 29 企画 石川県に応援職員を派遣しています！
- 30 県土整備部親睦サッカー大会開催！

平成28年台風第10号災害からの復旧・復興事業 完了しました！！



平成28年台風第10号災害からの復旧・復興 記念式典を開催しました！

沿岸広域振興局土木部 岩泉土木センター

平成28年台風第10号豪雨により、岩泉町では小本川などの河川氾濫や土砂災害が数多く発生しました。このため、岩手県では、発災以降、同台風災害からの復旧・復興事業（道路・河川・砂防）を進めてきました。発災から9年の歳月を経て、令和7年10月末の小本川河川改修工事の完成をもって、全ての復旧・復興事業が完了しました。

これを記念し、令和7年11月1日に岩泉町民会館で「平成28年台風第10号災害からの復旧・復興記念式典」を開催しました。

式典には、達増知事のほか、町内外から来賓約70名が出席し、復旧・復興事業の完了を祝いました。



主催者挨拶（達増知事）



来賓祝辞（鈴木衆議院議員）

主催者挨拶では、達増知事が「国土交通省、岩泉町、工事関係者など、関係各位に深く感謝を申し上げる。本災害からの復旧・復興事業の成果が、防災・減災対策の一層の推進、ひいては、安全で快適な郷土の創造と、当地域の更なる飛躍に大きく貢献するものと確信している。」と述べました。



来賓祝辞（木戸口参議院議員）



来賓祝辞（城内岩手県議会議長）



来賓祝辞（矢崎国土交通省
水管理・国土保全局防災課長）



事業経過報告（岩泉土木センター藤島所長）



御礼の言葉（中居岩泉町長）



くす玉開披

来賓祝辞の後に、岩泉土木センター藤島所長から、被災当時の状況や復旧・復興工事のあゆみ、流域治水の取組など事業経過報告を行いました。

続いて、中居岩泉町長から、県や工事関係者に対する御礼の言葉をいただくとともに、「この災害の教訓を決して風化させず、後世に継承し、誰一人犠牲者を出さない災害に強いまちづくりに取り組んでいく。」とお話いただきました。

その後、達増知事や中居町長をはじめとする来賓の代表計14名の方々がくす玉開披を行い、事業の完了を祝いました。



動画上映



パネル展

最後に、「いわいずみ9年のキセキ～未来へつなぐ桜とともに～」と題して、地域の方々のインタビューを交えた復興へ至る動画の上映を行い、閉式となりました。

会場内では、復興のあゆみを振り返る「いわいずみ復興かわら版」パネル展を併せて開催しました。

～ 事業による整備効果が着実に現れています ～

令和6年8月の台風第5号では、平成28年台風第10号と同規模の総雨量を記録しましたが、小本川では治水対策の進捗により、河川氾濫による浸水被害はありませんでした。同様に、岩泉町内で整備した砂防堰堤が崩壊土砂や流木等を捕捉し、下流への被害を防止しました。

引き続き、出前講座や流域治水の取組を通して、安全・安心な地域づくりに取り組んでいきます。

【代表箇所の完成写真】



二級河川小本川 市街地地区



二級河川小本川 乙茂地区



本銅口の沢



国道455号 中島地区

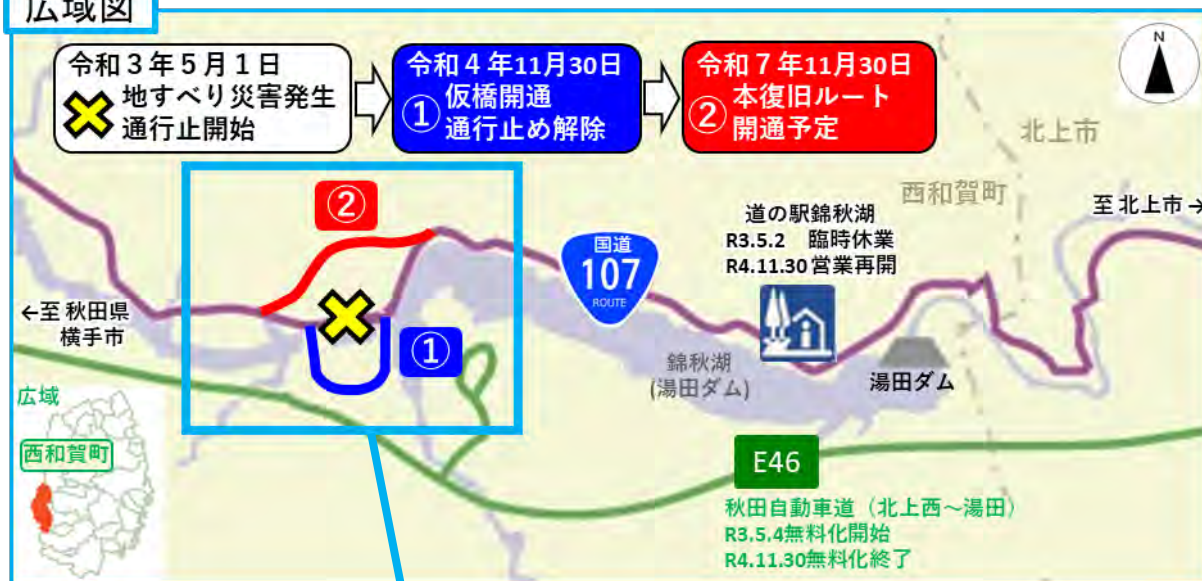
一般国道107号大石地区道路災害復旧事業 大石トンネル令和7年11月30日15時に開通します！

県南広域振興局土木部 北上土木センター

岩手県が管理する一般国道107号の西和賀町大石地区において、令和3年5月1日に地すべり災害が発生し、一時全面通行止めとなりましたが、現在は迂回路として応急工事で仮橋を整備し、片側交互通行で一般通行を確保しているところです。

この度、災害復旧事業で整備を進めているトンネルを主とする本復旧ルートが完成し、**令和7年11月30日（日曜）15時に開通**することとなりました。**同日の午前10時半から『開通式』**の開催も予定しています。

広域図



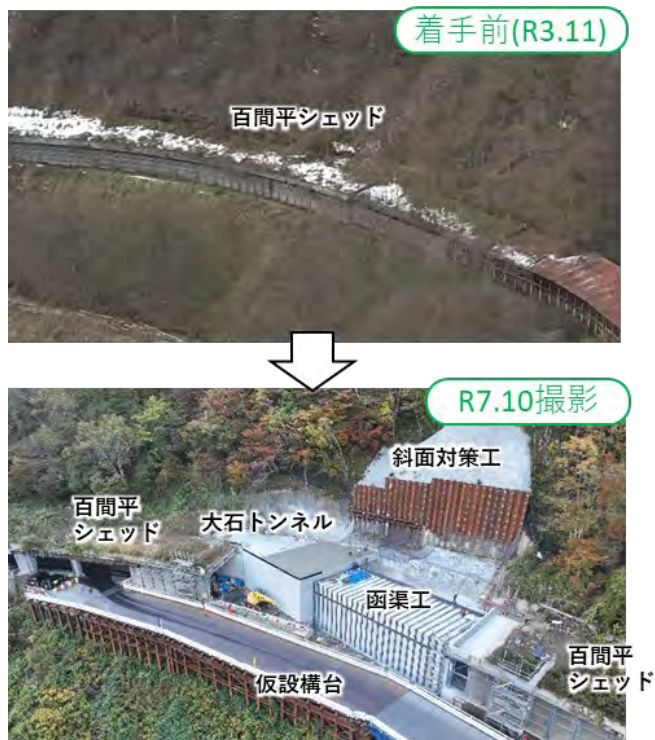
拡大図



【大石トンネル坑口 西和賀側の状況】



【大石トンネル坑口 北上側】



今回の開通により下記の整備効果が見込まれます。

本復旧ルート of 整備効果

防災機能の強化

地すべり災害箇所を回避するとともに、更に山側に分布する大規模地すべり地形を回避し当該区間の防災機能の強化

走行時間の短縮

ショートカットや急カーブ・急勾配区間の解消により、現道と比較し走行時間が約2分短縮（仮橋ルートからは約5分短縮）

冬期間の安全性向上

区間の大半がトンネルとなることから、冬期間の走行性・安全性が大幅に向上

また、波及効果として、地域間連携の促進、地域経済の活性化、観光振興などが期待されます。

【走行時間短縮】



【冬期間の安全性向上】



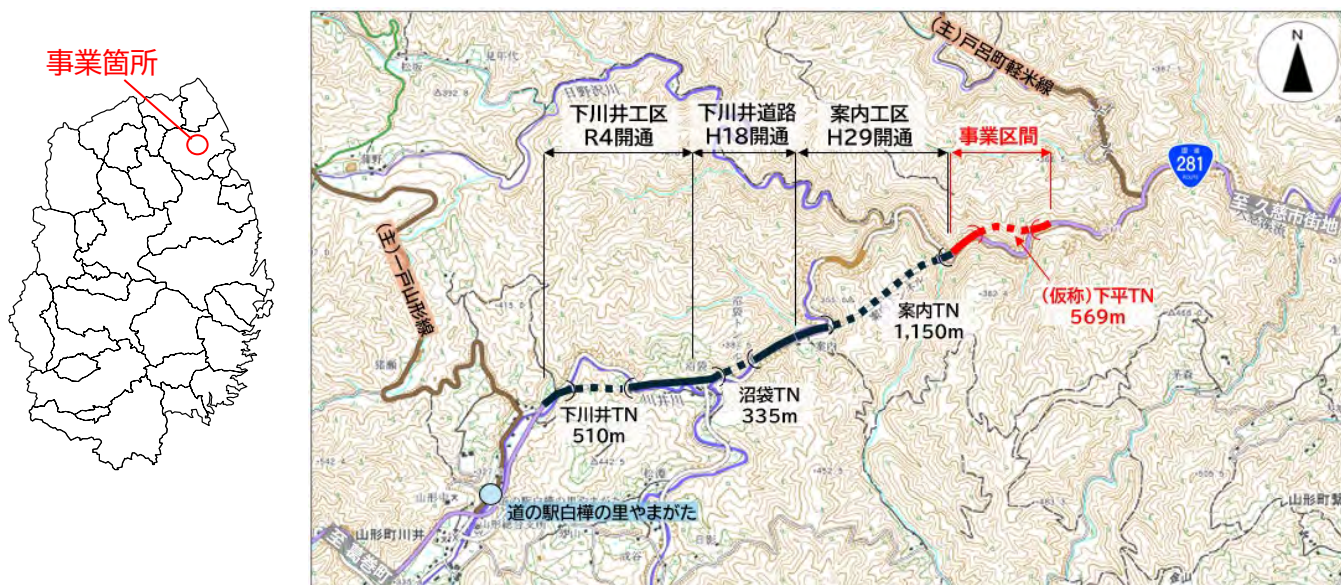
一般国道281号案内～戸呂町口工区において久慈市立山形中学校を対象とした

体験型現場見学会を開催しました！

県北広域振興局土木部

岩手県が久慈市山形町地区で整備を進めている一般国道281号案内～戸呂町口地区は、令和2年度から事業を開始し、令和5年度には道路改良工事に着手、令和7年10月には（仮称）下平トンネル築造工事が契約となり、現在、本格的に整備を進めています。

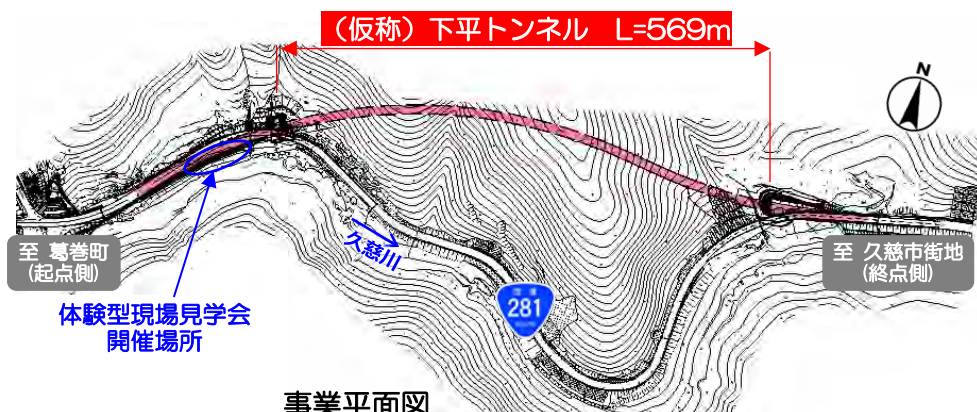
この度、道路改良工事を進めている起点側（葛巻町側）において、久慈市立山形中学校を対象とした体験型現場見学会を開催しました。



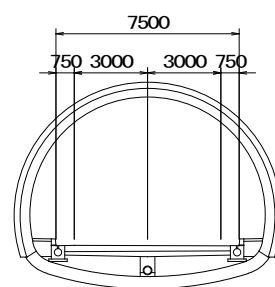
起点側（葛巻町側）



終点側（久慈市街地側）



事業平面図



標準断面図
(トンネル部)

体験型現場見学会には、山形中学校の全校生徒が参加し、**軽量盛土材**（材質：発砲スチロール）へ**将来の夢**や**施工業者の方への感謝のメッセージ**等を記入後、実際に**軽量盛土の施工体験**を行ったほか、**無人航空機（ドローン）の操縦体験**や**測量体験**、**土木に関するクイズ**を通じて、建設業への理解を深めていただきました。



生徒が軽量盛土を施工した場所でドローンにより撮影



軽量盛土へのメッセージ記入



軽量盛土施工体験



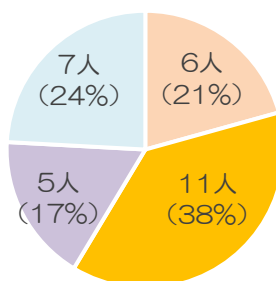
測量作業体験

<参加者へのアンケート結果(回答者 29 名)>

参加した生徒からは、「**自分たちが作業をした盛土が道路になるのが面白い**」や「**普段触れたことがない機械に触れられてよかった**」などのコメントが寄せられ、**学びや楽しさ**を感じてもらえた見学会となりました。

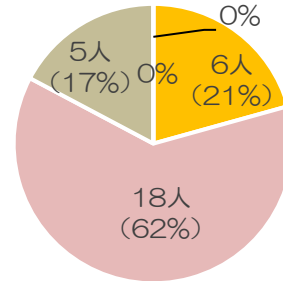
当該工区においては、多くの方に建設業に興味を持ってもらえるよう、**今後も同様の見学会等を開催していきます！！**

思い出に残った体験は？



- 軽量盛土施工体験
- 測量体験
- ドローン操縦体験
- 土木クイズ

建設業へ興味は持ちましたか？



- すごく興味を持った
- 少し興味を持った
- どちらとも言えない
- 少し興味がなくなった
- 全く興味がなくなった

上鵜飼の沢砂防堰堤が完成しました！

盛岡広域振興局土木部

上鵜飼の沢は、一級河川北上川水系支川諸葛川の土石流が発生するおそれのある溪流として、平成31年に土砂災害防止法に基づき土砂災害警戒区域に指定しました。

岩手県では、保全対象となる人家137戸、滝沢市浄水場、市道等への土石流被害を軽減させることを目的として、砂防事業を進めてきました。

事業は、令和2年度に開始し、令和5年度に砂防堰堤の工事に着手、**令和7年9月に工事が完成**しました。工事期間中には、ソフト施策の取組として小・中学生や地域住民を対象とした防災学習や完成見学会などを開催しました。

今後も、防災学習や災害関連情報の発信などを通じて、地域の防災力向上につながる取組を進めていきます。

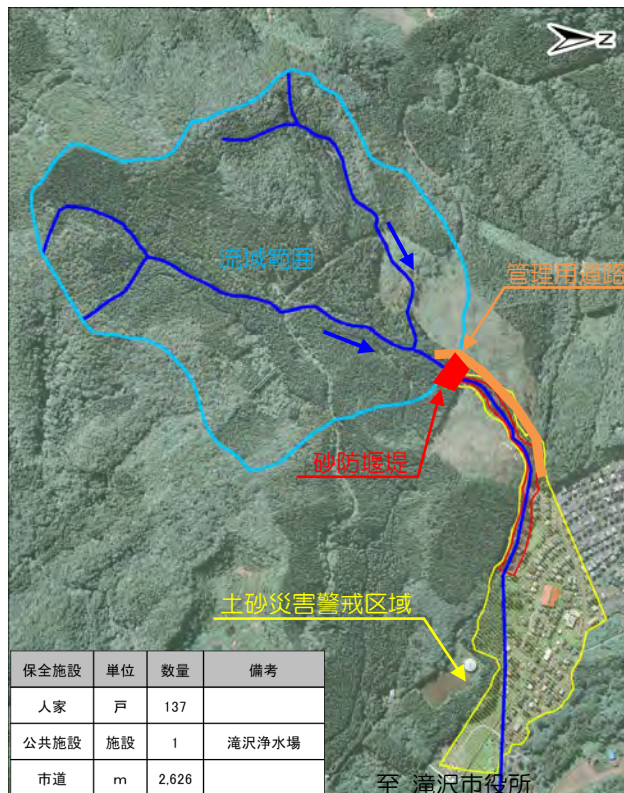
《位置図》



《堰堤概要》

堤長 74.0m
堤高 10.0m
施設効果量 4,990m³
透過型砂防堰堤
砂防ソイルセメント構造

《流域概要図》



《堰堤完成状況》

堰堤工施工前 (R6.8)



完成 (R7.9)



防災学習について

砂防施設の役割や土砂災害に対する備えについての理解を深めることを目的とした、**砂防出前講座や現場見学会を開催**しました。

滝沢市立鵜飼小学校において実施した砂防出前講座では、実際の被災写真や土石流の模型実験装置などを活用し、土砂災害の仕組みや前兆現象について学習しました。



▲現場見学（滝沢市立鵜飼小学校）



▲土石流模型実験



▲現場見学（盛岡市立下小路中学校）



▲現場見学（盛岡市立見前中学校）

完成見学会について

上鵜飼の沢砂防堰堤の完成にあわせて、地域住民に工事の成果を報告するため、**完成見学会を開催**しました。

完成見学会には、滝沢市、地元市議会議員、地域住民の方々が参加し、盛岡広域振興局土木部戸来部長及び滝沢市武田市長の挨拶後、事業報告と現場見学を行いました。



▲現場見学の様子



▲上鵜飼の沢砂防堰堤をバックに記念撮影

中学生を対象とした 「土砂災害出前講座・工事現場見学」を開催しました！

沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター

令和7年10月15日、宮古土木センターでは宮古市立新里中学校1～3学年(36名)を対象に、自然災害に対する知識や適切な避難行動に繋げていくための防災教育の一環として、土砂災害出前講座と砂防工事の現場見学を開催しました。

はじめに、屋外で砂防工事現場の見学及び模型を使用した土石流の実験を行いました。その後、中学校のホールで出前講座を実施し、

① 土砂災害の発生状況 ② 土砂災害の特徴 ③ 砂防施設の概要 ④ 適切な避難行動
についての講義を行いました。

生徒からは、『土砂災害について、詳しく学ぶことが出来て良かった』、『工事現場を見て怖いと感じたので、避難場所を家族と話し合いたい』等のふり返りがありました。

宮古土木センターでは、今後も引き続き管内小中学校で出前講座を計画していきます。

1 工事現場見学、模型実験

土砂災害対策として施工中の赤前地区溪流保全工工事現場を見学しました。

また、模型を使用した実験を行い、土石流の動きと砂防堰堤の役割を説明しました。



2 出前講座

① 土砂災害の発生状況、② 土砂災害の特徴、③ 砂防施設の概要、④ 適切な避難行動について、講義を行いました。



いわて建設業みらいフォーラム2025を開催しました

建設技術振興課

岩手県と一般社団法人岩手県建設業協会では、県民の安全で安心な暮らしに果たす建設業の役割や魅力を発信することで、**建設業のイメージアップ**を図り、**次世代を担う若者をはじめとした県民の建設業への理解や関心を高める**ことを目的に「いわて建設業みらいフォーラム」を平成25年度から開催しています。

今年度は、令和7年10月30日にキオクシア アイーナで開催し、**県内の高校生等約400名に参加**いただきました。

企業展示

ホールホワイエ等では、県内建設企業等20者の企業展示を行いました。

今年度から土木・建築系の企業のほかに電気工事や管設備工事、建設コンサルタントの3業種を追加し、建設業の幅広い業種と各会社の魅力PRを行いました。来場した高校生は各社の説明を熱心に聞いていました。



▲多くのブースでは動画やパンフレットによるPRがあり、生徒は県内企業への理解を深めました。



▲実際のドローンの展示をした企業もありました。

パネルディスカッション

ホールでは県内建設企業で働く従業員の方々をパネリストとしてお招きし、「建設業の現在と未来」をテーマにパネルディスカッションを行いました。

それぞれ職種や業種が異なるパネリストの皆さんから建設業の働く環境や働いてよかったことなど、様々なお話をいただきました。

～ パネリストの皆さん ～

- ▶ 小松原未来さん（進栄建設(株)/技術者）
- ▶ 鈴木陽子さん（昭栄建設(株)/営業）
- ▶ 熊谷さやかさん（(株)吉田測量設計/技術者）





現在は国土交通省発注の河川維持工事の現場代理人として働いている小松原さんからは「建設業はいわゆる3K（きつい・汚い・危険）と言われるが、環境整備が進んでおり、性別を問わず働きやすい環境が整っている」とのお話がありました。

建設コンサルタント会社で技術者として働く熊谷さんは「生まれも育ちも岩手県だが、今の仕事をするようになってから、より地元が鮮明に見えるようになった」、「ドローンなどの資格は会社のサポートを受けて取得することができた」など、「地元」で働くことの良さや会社のサポート体制について、お話いただきました。

パネリストにインタビュー！

パネリストの皆さんには「建設業に就いてよかった10のコト」にお答えいただき、来場者の皆さんにご紹介しました。

会社内で入札契約などの仕事を担当する鈴木さんからは「一つの工事には様々な人々がチームとして関わっており、完成時には達成感を感じる」、「事情があって子どもを保育園に預けられないときは、子連れ出勤を認めてもらっている」など、営業という立場での働き方や工事への関り方、建設企業では子育てをしながら働きやすい環境が整備されていることについて、お話をいただきました。

パネリストにインタビュー！

建設業に就いてよかった10のコト

- 01 いろんな場所で働けること
- 02 体力が付くこと
- 03 手先が器用になること
- 04 休憩時間がしっかりとれること
- 05 意外と休を取るのに融通が利くこと
- 06 残業代がしっかり支払われること
- 07 社内外含めて、面白い人がたくさんいること
- 08 資格取得のサポートがあること
- 09 1人1台の社用車で通勤できること
- 10 建てた建物を自慢できること

吉田 空
Sora Yoshida
勤続年数：7年目
株式会社佐藤組
岩手県北上市相馬町日建沢20-1
Tel.0195-67-5555

- 01 社会貢献ができること
- 02 地域貢献ができること
- 03 福利厚生がしっかりしていること
- 04 手に職が付けられ、スキルアップができること
- 05 仕事と私生活の両立ができること
- 06 いろんな人と関わること
- 07 最新技術に触れられること
- 08 職場の設備が整っていること
- 09 自由に何でも挑戦できること
- 10 地域を知ることができること

小松原 未来
Miku Komatsubara
勤続年数：7年目
進栄建設株式会社
岩手県奥州市花巻小山字道場136
Tel.0197-47-0714

- 01 建物の完成までの過程を間近で見ることができること
- 02 チームでたくさんの人と関わり、仕事に取り組む喜びがあること
- 03 工事が完成した時の達成感が味わえること
- 04 高い社会貢献性を感じられること
- 05 女性にやさしく働きやすい環境が整っていること
- 06 女性活躍推進の取組により女性の意見も反映されること
- 07 資格取得のサポートがあること
- 08 社員同士の交流の場が多く、安心できる環境があること
- 09 柔軟な働き方ができること
- 10 子育てや介護との両立ができること

鈴木 陽子
Yoko Suzuki
勤続年数：11年目
昭栄建設株式会社
岩手県盛岡市上笠4丁目11-8
Tel.019-647-2222

- 01 地元岩手への貢献を実感できること
- 02 大学で学んだ土木工学の知識を活かすことができること
- 03 握り下げられること
- 04 社会基盤を支える重要な役割を担えること
- 05 自分が関わったものの完成を見ると感動すること
- 06 コミュニケーション能力が向上すること
- 07 最先端技術を学ぶ機会があること
- 08 今まで行ったことのない土地を知ることができること
- 09 適正、能力に合わせて働くことができること
- 10 資格取得のサポートがあること

熊谷 さやか
Sayaka Kumagai
勤続年数：11年目
株式会社吉田測量設計
岩手県盛岡市仙北1丁目3-13
Tel.019-635-1740

いわて花巻空港 スカイフェスタ2025 開催

～約5千人が空の魅力を満喫～

花巻空港事務所

令和7年9月23日（火・祝日）に、いわて花巻空港において「スカイフェスタ2025」を開催しました。

スカイフェスタは、空の日（9月20日）にちなんだイベントで、平成6年からスタートし、今年で29回目の開催となります。



会場の様子

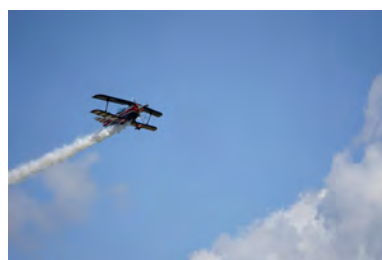


化学消防車放水デモ

当日は、天候にも恵まれ、約5千人の来場がありました。普段立ち入ることのできない空港の制限区域で、様々な航空機や化学消防車など特殊車両と間近で触れ合うとともに、防災ヘリコプターの救助デモや軽飛行機の曲技飛行なども行われ、空の魅力を満喫していました。



防災ヘリコプター救助デモ



軽飛行機ピッツによる
曲技飛行



消防服着せ替え体験



(株)ニセコアビエーション
所有の水上飛行機

スカイフェスタ2025の主な内容

■ アトラクション

- ・ 防災ヘリコプターによる救助デモ
- ・ 軽飛行機FA-200によるデモ
- ・ 曲技飛行機ピッツによるデモ
- ・ 化学消防車による放水デモ

■ 体験・PRイベント

- ・ 空港消防隊による消防車両乗車体験
- ・ 消防隊着せ替えコーナー
- ・ タワー（管制塔見学）
- ・ 花巻市建設業協会青年部による建設機械搭乗体験ほか

■ 各種展示・PRブース

- ・ 機材展示：(株)パスファインダー、(株)ニセコアビエーション、防災ヘリ、陸上自衛隊ヘリほか
- ・ パトカー展示
- ・ PRブース（岩手県空港利用促進協議会、航空会社ほか）

建設業担い手育成の取組み

「みやっこタウン」に出展しました！

沿岸広域振興局土木部 宮古土木センター

「みやっこタウン」とは・・・

- みやっこタウン実行委員会（事務局：NPO法人みやっこベース）が主催する小学生、中学1年生向け社会・就業体験イベント
- 単なる就業体験ではなく、架空の「まち」を舞台とした社会体験プログラム



就業体験だけではなく、
お金、税金、大学、選挙
などを学ぶ『社会学習』



みやっこタウンのFacebookはコチラ ⇒ <https://www.facebook.com/MiyakkoTown/>

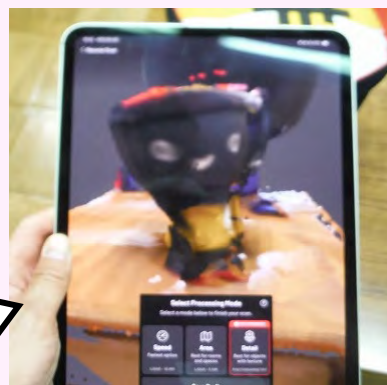
「建設業の担い手育成」として、宮古土木センターでは、「小中学生が建設DXを体験」するブースを出展したものです。



アイパッドを使って、自分で撮った写真から、3Dモデルを作る体験をしてもらいました。「3D測量は一周回っただけで全体が撮れて『すごい』と思いました。」などのうれしい感想もいただきました。

他にも、例年、岩手県建設業協会宮古支部青年部も「みやっこ建設」として建設業をPRするブースを出展しています。

※ 雨のため、縮小して実施



● ドローン体験も併せて行いました。

※ 株式会社アースデザインコンサルタンツ様にご協力いただきました。



令和7年度 いわての地域づくり・道づくりを考える大会 開催

岩手県道路整備促進期成同盟会主催

道路建設課

令和7年10月29日、花巻市内にて、道路整備の重要性や緊急性、道路の利活用のあり方について、関係する道路利用者や県民と広く共有するとともに、課題の解決に向けた支援や予算確保について、国及び関係機関に強く訴えかけることを目的として、『いわての地域づくり・道づくりを考える大会』を開催しました。

主催：岩手県道路整備促進期成同盟会（会長：花巻市長）

共催：岩手県高規格幹線道路整備促進期成同盟会（会長：知事）、岩手県道路利用者会議（会長：盛岡市長）

大会には、共催団体の会長として知事が出席したほか、県選出国會議員を始め、県内の市町村長、県議會議員、関係団体など約220人に御出席いただきました。



大会の様子

○ 挨拶・祝辞

上田 花巻市長は主催者挨拶で、『人口減少、高齢化及び地域経済の復興等に対応した、持続可能で質の高い地域づくりを実現していくため、資材価格などの高騰も踏まえた、計画的かつ長期的・安定的に、道路整備を進めるための予算を確保できるよう強く要望していく』と述べました。

達増 知事は共催者代表挨拶で、『道路の整備効果全県に波及するには、災害に強い道路ネットワークの構築、日常生活を支える安全な道づくり、産業振興や交流を支える道路整備、適切な維持管理等を着実に推進していくことが不可欠。本年度が最終年度となる防災減災国土強靱化のための5か年加速化対策の期間終了後においても、本年6月に策定された第一次国土強靱化実施中期計画に基づき、通常道路予算とは別枠で必要な予算を確保することを国に強く働きかけていくことが重要』と述べました。

また、来賓の方々を代表し、横沢 参議院議員、井上 国土交通省東北地方整備局道路部長、城内 県議會議長（代読：佐々木 県議會議副議長）からそれぞれ祝辞をいただきました。



主催者挨拶
上田 花巻市長



共催者挨拶
達増 知事



共催者挨拶
内館 盛岡市長



来賓祝辞
横沢 参議院議員



来賓祝辞
井上 国土交通省
東北地方整備局
道路部長



来賓祝辞
城内 県議會議長
（代読：佐々木
県議會議副議長）

大会では、「道路をとりまく最近の話題」と題して、井上 国土交通省東北地方整備局道路部長から令和8年度概算要求の概要や岩手県の地域づくり・道づくりの現状と課題等についての基調講演をいただきました。

また、県内の道路を利用する3名の方から、それぞれの地域・分野における実情を踏まえた、道路の重要性や今後の利活用について意見を発表していただきました。

○ 県内の道路を利用する業種の方々による意見発表



有限会社カネシメ水産
代表取締役 金子太一 氏

【テーマ】 「人と道と地域」

【主な発言内容】

- ・ 水産業は地球温暖化、物価高騰及び流通課題により、厳しい状況。
- ・ 三陸沿岸道路の整備により、トラックによる輸送は多様化した、有効に活用できていない水産系の事業所も多い。
- ・ 道路整備により観光客の増加や、遠方へのアクセスが向上した一方、観光客の受入れ態勢が整わず、地域の悪印象を与えることや、人口減少が懸念される。
- ・ 地域住民と観光客が共に豊かになる「地域と道づくり」が必要。

【テーマ】 「製品輸送における道路の活用」

【主な発言内容】

- ・ 釜石港を経由した海上輸送ルートの導入により、輸送時間が短縮化。
- ・ 釜石自動車道など復興支援道路の活用が、輸送距離（時間）短縮や、利便性向上に大きく貢献。
- ・ 北上金ケ崎IC周辺の国道4号拡幅整備事業完了後の効果発現にも期待。
- ・ 運送コスト削減や2024年問題への対応策として、自動車専用道路の延伸や拡幅整備の継続を要望。



東網スチールコード株式会社
福村 雅人 氏



ワタミオーガニックランド株式会社
企画・営業部長 福井 聡 氏

【テーマ】 「ワタミの復興支援の取り組みと今後の展望」

【主な発言内容】

- ・ 三陸沿岸道路の整備が、施設開発に係る経営判断の一助となった。
- ・ 市内外からの来訪者が増加しているのは、道路整備の恩恵も大きい。
- ・ 高齢者や観光客等が安心して移動でき、自動運転化なども視野に入れた、細やかな道路整備やメンテナンスが必要。
- ・ 道路整備に携わる関係者と連携し、地域のにぎわい創出や関係人口・交流人口の拡大に向けて取り組んでいく。

最後に、佐々木 田野畑村長が決議(案)を読み上げ、大会決議が採択され、上田 花巻市長から横沢参議院議員に決議書を手交しました。

大会後には、11月6日、7日及び18日に関係省庁等を訪問し、資材価格等の高騰等の影響を適切に反映し、頻発する災害も踏まえ、当初予算において通常道路予算とは別枠で必要な予算を満額確保することなどを要望しました。

県としては、引き続き、市町村、関係者の皆様と連携し、安全・安心を支え、産業や観光振興の基盤となる社会資本の整備に向けて必要な予算確保に取り組んでいきます。



上田 花巻市長から
横沢 参議院議員へ決議手交

道路愛護団体への感謝状伝達式・贈呈式を開催！

道路環境課

国土交通省及び岩手県では、8月の「道路ふれあい月間」事業の一環として、道路美化清掃などの道路愛護等の活動に努め、その功績が特に顕著な民間の団体又は個人に対して、国土交通大臣及び岩手県知事の感謝状を贈呈しているところです。

令和7年度は、国土交通大臣感謝状1団体、岩手県知事感謝状3団体に対し、感謝状の贈呈を行いました。

感謝状は、8月27日に県土整備部長から伝達し、当日欠席された団体に対しては、各広域振興局土木部等において贈呈を行いました。

★ 国土交通大臣感謝状 受賞団体 ★

● 栃内地区公民館（紫波町）

昭和60年に設立されて以来、40年間に渡り継続して県管理道路の草刈りや花壇整備等の道路環境美化に努めており、平成14年度に岩手県知事感謝状を受賞した後も継続して活動され、道路愛護思想の普及と快適な道路環境の保持に貢献しておられます。



★ 岩手県知事感謝状 受賞団体 ★

● 矢作町第六区町内会（陸前高田市）

大船渡土木センター管内において、平成27年度から住民協働による草刈業務を継続して実施しており、適切な道路状態の保全や地域の景観美化に貢献しておられます。

● あすなろ会（久慈市）

平成21年に地域の住民有志で団地を設立し、県北広域振興局土木部管内において、県管理道路の草刈業務を継続して実施しており、道路の安全確保や地域の美化に貢献しておられます。

● 円子老人クラブ（軽米町）

二戸土木センター管内において、平成20年度から住民協働による県管理道路の草刈業務を継続して実施しており、道路の安全確保や地域の景観美化に貢献しておられます。



矢作町第六区町内会



あすなろ会



円子老人クラブ

馬淵川上流を特定都市河川に指定しました

河川課

1 流域治水の取組

近年、全国各地で豪雨等による水災害や土砂災害が発生するなど、人命や社会経済への甚大な被害が生じています。

「流域治水」とは、気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、集水域から氾濫域にわたる流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。



流域治水イメージ図（国交省HPより）



令和4年8月豪雨（一戸町向町）

2 特定都市河川とは

「流域治水」の取り組みの一つとして、個別補助事業化による河川整備などのハード対策の加速化に加え、雨水流出の増加抑制対策や土地利用規制等により、流域の安全・安心の確保に取り組む河川です。

本県では、葛巻町及び一戸町等を流下する馬淵川上流について、令和7年10月17日に県内で初となる「特定都市河川」に指定しました。

- 一級河川 馬淵川上流（まべちがわ）
- 一級河川 ニツ石川（ふたつししがわ）
- 一級河川 小井田川（こいだがわ）
- 一級河川 女鹿川（めががわ）
- 一級河川 平糠川（ひらぬかがわ）
- 一級河川 小繋川（こつなぎがわ）
- 一級河川 宇別川（うべつがわ）
- 一級河川 山形川（やまがたがわ）
- 一級河川 元町川（もとまちがわ）



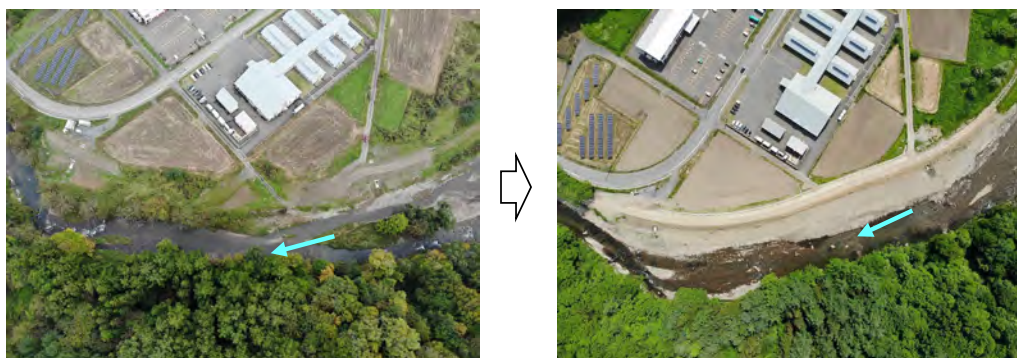
指定河川及び指定流域図

3 指定後の取組と期待される効果等

今後、河川管理者、流域の市町の長（二戸市、葛巻町、岩手町、一戸町）等からなる法定協議会「流域水害対策協議会」を組織し、河川改修等のハード整備に加え、流域における貯留・浸透機能の向上、水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり等の浸水被害対策を流域一体で計画的に進めるための「流域水害対策計画」の検討に着手します。



馬淵川 一戸町本町地区河川改修

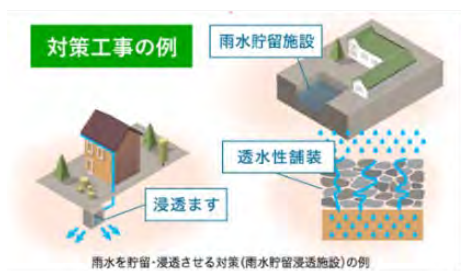


馬淵川 葛巻町打田子地区河川改修

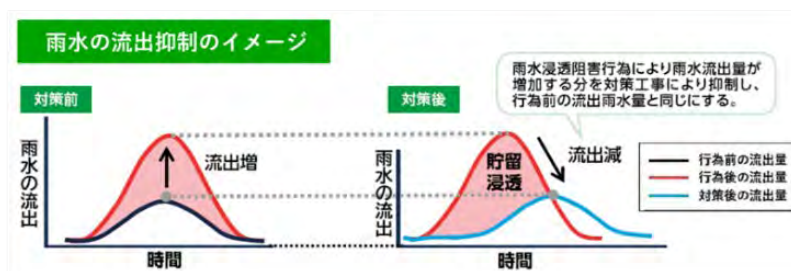
併せて、流域の貯留・浸透機能の維持を目的として、流域内において田畑など締め固められていない土地で行う1,000m²以上の雨水浸透阻害行為（土地からの流出雨水量を増加させるおそれのある行為）には、県知事の許可が必要となり、雨水貯留浸透施設の設置が義務付けられます。（公共事業も対象になりますので事前に相談願います）

雨水浸透阻害行為の例

雨水浸透阻害行為とは現在の土地に対し、地下に浸透しないで他の土地へ流出する雨水の量を増加させるおそれのある行為



雨水を貯留・浸透させる対策（雨水貯留浸透施設）の例



開発により流出する雨水量が増
→流れ込む河川の水位に影響

対策工事により水を溜める
→時間をかけて河川に流す

北いわてで活躍する女性技術者を紹介します！

県北広域振興局土木部 二戸土木センター

岩手県県土整備部では、建設業界が性別に関わらず誰もが働きやすい業界となることを目指し、平成29年度から建設産業における女性の活躍支援のための総合的な取組を進めています。

二戸土木センターでは、建設業における入職促進に向け「誰もが働くことができる建設業」をPRする取組を始めました。管内の県営建設工事で活躍している「女性技術者」の現場での役割などを紹介します。

今回は、令和6年度の工事を担当している株式会社アルバライフ山下さんと株式会社田中建設植村さんを紹介します。

工事名：令和6年度一級河川馬淵川筋本町地区ほか河川改修（その2）工事
会社名：株式会社アルバライフ



山下 梢
2001年入社



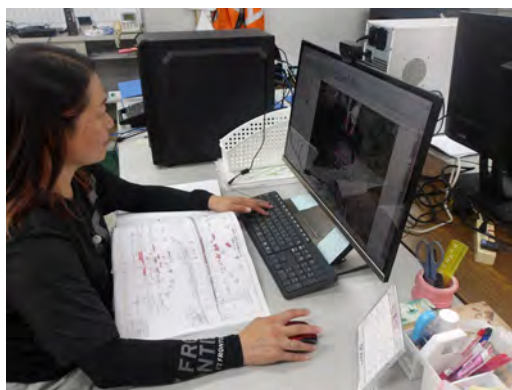
工事目的及び概要

河川氾濫時の増水対策として、河川内の土砂撤去、特殊堤の建設を行う工事です。

現場での役割

主任技術者として、下請業者との業務の調整、写真管理や近隣住民との調整を行っています。

作業員が安全にスムーズに作業ができるように、またトラブルに対し早期に対応できるように日々努めています。



建設業を選んだ理由

私は体を動かすことが好きなので「外で働きたい」と思い、建設業に入社しました。

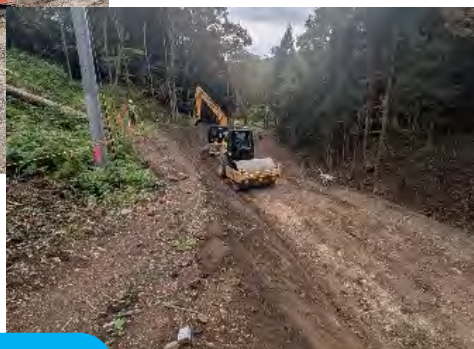
入社当初は作業員でしたが、現場監督の仕事に憧れを持つようになり、今は現場監督として業務をこなしています。



工事名：令和6年度石切所の沢工事用道路整備工事
会社名：株式会社田中建設



植村 みゆき
2024年入社



工事目的及び概要

土石流対策施設として砂防堰堤を建設するための工事用道路を整備する工事です。

現場での役割

現場代理人として主に現場事務全般を担当しています。具体的には、出退勤の管理や、出来高の管理、各種データの入力管理補助等を行っています。

また、建設副産物責任者として産業廃棄物処理の契約やマニフェストの発行の業務を行っています。

安全第一と作業環境整備で日々仕事を行っています。



建設業を選んだ理由

知人が田中建設に勤めていたことから、「もし良かったら職場体験をしてみない？」と声をかけてもらい建設業に触れてみました。

職場体験を通して、地元の為に自分にも何かできることがあるのではないかと感じ、就職を決めました。



二戸土木センターでは、引き続き、土木分野で活躍している「女性技術者」や「若手技術者」を紹介するなど、建設業における入職促進の取組を進めていきます。

管内の事業進捗状況や入職促進の取組等についてホームページに掲載しています。

http://www.pref.iwate.jp/kenpoku/nino_doboku/index.html



→ 二戸土木センター

検索

→ 県北広域振興局 > 二戸土木センター > おしらせ



令和7年度東北地方整備局管内業務発表会で最優秀賞を受賞 「除雪支援システムについて」～除雪DXが拓く建設業の未来～

盛岡広域振興局土木部 岩手土木センター

令和7年6月19日から20日にかけて国土交通省東北地方整備局主催で開催された「令和7年度東北地方整備局管内業務発表会」において、盛岡広域振興局土木部岩手土木センター菊地主査が発表した「除雪支援システムについて」が最優秀賞を受賞しました。

美しい県土づくりNEWS 2025年7月号で概要をお伝えしておりましたが、今号では、発表内容の詳細をお伝えします。

また、東北地方整備局からの推薦を受け、令和7年11月27日から28日にかけて国土交通省主催で開催される「令和7年度国土交通省国土技術研究会」においても発表する予定です。

◇ 国土技術研究会の概要等はこちらからご覧ください。（国土技術研究会HP）

<https://www.mlit.go.jp/chosahokoku/giken/>



八幡平アスピーテラインの「雪の回廊」は、岩手を代表する春の絶景ですが、この壮大な景観の裏側では、除雪作業が深刻な課題に直面しています。

本日は、この絶景を守り、未来へつなぐための新たな挑戦についてご報告します。



除雪支援システムについて

菊地 和久¹

¹岩手県盛岡広域振興局土木部 岩手土木センター (〒028-4307岩手県岩手郡岩手町大字五日市9-48)

岩手県の主要観光道路「八幡平アスピーテライン」では、春の開通時に現れる雄大な「雪の回廊」が全国的に知られ、多くの観光客を魅了している。

しかし、この絶景を届けるための除雪作業は、厚い積雪や視界不良、がけ地での滑落リスクといった安全確保の難題に加え、熟練作業員の高齢化や担い手不足が喫緊の課題となっている。

そこで、本稿では、高精度3次元地図を活用した革新的な「除雪支援システム」を試験的に導入し、作業効率と安全性の向上を図るとともに、経験の浅い作業員による除雪作業を可能とし、担い手不足の解消を目指す取組について紹介する。

キーワード i-Construction

1. はじめに

主要地方道大更八幡平線は、岩手県八幡平市から秋田県鹿角市へ至る、十和田八幡平国立公園を通過する重要な観光道路である(図-1)。特に、通称「八幡平アスピーテライン」と呼ばれる山岳区間は、春の開通時に現れる雄大な「雪の回廊」が全国的に知られ、多くの観光客を魅了している(写真-1)。



図-1 位置図



写真-1 雪の回廊

しかし、この息をのむような絶景を届けるための春先の除雪作業は、通常の除雪とは比較にならない困難さと危険性を伴う。冬の間に降り積もった雪で道路が完全に

覆われ、位置特定が極めて難しい上、がけ地も多く、常に滑落事故のリスクが伴う。そして、このような過酷な作業は、これまで長年にわたり、熟練作業員の豊富な経験と勘に支えられてきた。

本稿では、こうした厳しい条件下での除雪作業の効率化と安全性の向上を図り、経験の浅い作業員でも安全に作業が行えるよう、岩手県で初となる高精度3次元地図を活用した「除雪支援システム」を試験的に導入した取組について、その内容と効果を報告する。

この取組は、建設業界における生産性の向上を目指す「i-Construction」の一環でもあり、地域の重要な観光資源を守り、未来へつなぐための挑戦でもある。

2. 春先除雪の背景と課題

(1) 過酷な作業環境と熟練の「勘」への依存

八幡平アスピーテラインの冬期通行止め区間約10.6kmでは、例年3月上旬から約1ヶ月をかけて春先の除雪が行われる。この作業は場所によっては最大8mもの高さに降り積もった雪を掘り進める極めて過酷なものである。積雪により道路の状況が全く確認できず、作業員は周囲の地形や、降雪前に設置した目印(指標木)を頼りに、道路の位置や幅、カーブの形状などを予測する「位置確認」を慎重に行う(写真-2)。



写真-2 春先除雪前の位置確認

この位置確認作業は、作業全体の成否を左右する最も重要な工程であり、まさに長年の経験と「勘」に大きく依存する作業である。また、複数の重機が緻密な隊列を組み、連携しながら慎重に作業を進める除雪体制も、この過酷な環境下での安全かつ効率的な作業を支えるために構築されてきた（写真-3）。



写真-3 除雪体制

(2) 課題

長年にわたり行われてきた春先除雪であるが、近年、以下のような大きな課題に直面している。

a) 熟練の技を持つ匠の高齢化と担い手の不足

前述の「位置確認」作業は、通行止め区間の地形や過去の積雪状況などを熟知している必要があり、確実に作業を行うためには通常15年から20年程度の経験が必要とされている。

一方で、「令和3年度岩手県建設業構造実態調査」（県建設技術振興課）によると、県内の建設業就業者の半数以上が50歳を超えており、高齢化が進行している。

この高齢化は、春先除雪においても熟練作業員の高齢化と、その高度な技術を継承する担い手の確保・育成が喫緊の課題であることを示している。

b) 従来の目印（指標木、区画線）の限界とリスク

従来の除雪作業では、積雪後も道路の幅が分かるよう、冬期通行止めを開始する前に約6mの高さの指標木を設置している。しかし、厳しい冬の間の強風や雪の重みで、これらの指標木が倒れたり、折れたりすることも少なくない。これにより、正確な道路位置の把握が困難になる場合が多く、また、毎年多くの指標木が破損するため、その補充にかかる費用も大きな負担となっていた。

さらに、センターラインなどの区画線は、雪を掘り進める際の重要な目印となるが、長年の使用による摩耗や、冬期間の凍結融解などで劣化が進み、積雪の中から現れても、かすれて視認しにくい場合が多く、正確な道路中央位置の特定が困難であった。

3. 革新的な除雪支援システムの導入

八幡平アスピーテラインの除雪作業が抱える多くの課題を解決し、より安全で効率的な除雪作業を実現するため、岩手県で初となる「除雪支援システム」を試験的に導入した。このシステムは、最先端の測量技術と情報通信技術を融合させたものである。

本システムの核となるのは、「MMS（モービルマッピングシステム）」と呼ばれる特殊な計測車両である（写真-4）。MMSは、3次元レーザースキャナーや高精度カメラを搭載しており、走行しながら周囲の地形や構造物を精密な3次元点群データ（点の集まりで立体を表現するデータ）として取得する。このデータは、自動運転技術に用いられるレベルの高精度なもので、「高精度3次元地図」の作成に活用される。この高精度な地図情報が、雪に閉ざされた道路の「見えない」部分を見える化」する基盤となる。



写真-4 MMS車両

さらに、除雪車両や作業員が持つタブレット端末には、GNSS（全球測位衛星システム）受信機が搭載されている。この受信機は、日本の準天頂衛星「みちびき」にも対応しており、山間部など携帯電話の電波が届きにくい場所でも、高い精度（最大で数センチメートル程度）で現在位置をリアルタイムに把握することを可能にする。この高精度な位置情報と3次元地図の組み合わせが、除雪作業の根幹を革新していく（図-2）。



（出典：ダイナミックマッププラットフォームAxyz社）

図-2 高精度な位置情報と3次元地図による除雪作業イメージ

(1)「見える化」がもたらす作業支援

本システムでは、作業員が持つ専用タブレット端末の画面上に、高精度3次元地図と自車の正確な位置がリアルタイムで表示される(写真-5)。地図には、道路のセンターラインなどの区画線や路肩の位置はもちろん、防護柵や支柱といった側方障害物、さらにはマンホールや横断側溝などの構造物情報までが精密に記録されている。

この支援により、オペレーターは、深い雪に覆われて確認できない道路の正確な位置や形状、さらには雪の下に隠れた構造物の位置まで、正確に把握しながら除雪作業を行うことが可能となる。

これは、従来の「経験と勘」に頼る作業から、デジタルデータに基づく客観的で「見える化」された作業への転換である。これにより、除雪作業で構造物を破損させたり、作業員ががけ下に転落したりするリスクを大幅に低減することが可能となる。



写真-5 システム画面

(2)現場に最適化された導入体制

春先除雪では、特に作業開始時の正確な道路位置確認と初期の拡幅作業が全体の成否を左右することから、その初期段階を重点的にサポートするため、以下の3台のシステムを導入した。

a) 歩行作業用(1台)

棒の先端に機器が装着された手持ち用のロッド型ではなく、より効率的に作業員がマーキング作業を行えるよう、アンテナとGNSS受信機をヘルメットに装着する改良型「ヘルメット型」を採用。これにより、両手が自由な状態でタブレットによる位置確認が可能となり、スムーズな作業が実現した(写真-6)。



写真-6 歩行作業用「ヘルメット型」

b) 車両搭載用(2台)

除雪隊列の先頭で雪を切り開くバックホウ(写真-7)と、初期拡幅を担うロータリ除雪車(写真-8)にシステムを搭載。車両搭載型では、より高精度な自車位置を地図上に表示させるため、アンテナを2基搭載した。



写真-7 車両搭載用「バックホウ」



写真-8 車両搭載用「ロータリ除雪車」

4. 確かな効果と現場の声

除雪支援システムの試験導入は、2024年と2025年の2シーズンにわたり実施し、その効果は具体的な実績と現場作業員の評価によって確認された。

(1)【2024年試験導入の効果】作業効率・安全性の向上、働き方改革への貢献

2024年3月から4月にかけての初めての挑戦では、携帯電話の電波が届かない山間部であり、吹雪などの悪天候に見舞われる日も少なくない環境下で、システムが正確な位置情報をリアルタイムに取得し続けられるかという懸念があった。しかし、実際に導入すると、システムは天候に左右されることなく安定して動作し、位置情報の誤差も最大数センチメートル程度という非常に高い精度が確認された。これは、雪に埋もれた道路を安全かつ正確に掘り進める上で、極めて信頼性の高い「道しるべ」となることを意味する。

この高精度なナビゲーションにより、除雪作業の効率化が図られ、作業時間の短縮が実現した。その結果、週休2日の実現など、働き方改革の推進に大きく貢献。また、タブレット画面上でがけ地などの危険箇所や障害物の位置を正確に把握できるため、作業の安全性の向上にも大きく寄与した。

(2) 【2025年試験導入のさらなる効果】コスト削減と作業負担軽減

2024年シーズンの確かな結果を受け、2025年3月から4月にかけてのシーズンでは、システムの導入効果をさらに検証するため、これまで300本設置していた道路幅を示すための指標木を100本程度まで大幅に削減して春先除雪に臨んだ。

このシーズンは、近隣の観測所での累加降雪量が前シーズンよりも約180cm多く、作業の進捗が懸念される厳しい条件下であったが、除雪支援システムの導入効果もあり、予定通りに作業を完了することができた。

指標木の削減は、破損時の補充にかかるコスト削減と、設置撤去にかかる作業員の負担軽減につながった。

(3) 現場作業員からの具体的な評価とメリット

システムを使用した受注者からは、以下のような好意的な評価が得られた。これらの評価は、システムの導入効果を具体的に示すものである。

「画面上でがけ地などの危険箇所や、雪に埋もれた構造物の位置が事前に分かるため、安心して作業に集中できるようになった。安全性が格段に向上した。」

「これまで道路の位置を探るのに多くの時間を費やしていたが、システムのおかげでその作業が大幅に効率化された。結果として作業時間が短縮され、以前よりも多く休日を確保できるようになった。」

「道路の位置確認作業は、従来15年から20年程度の長い経験が必要とされてきたが、このシステムがあれば、経験の浅い作業員でも自信を持って作業に取り組むことが可能。これは若手育成の観点からも非常に有益である。」

5. 除雪DXが拓く建設業の未来

2シーズンにわたる除雪支援システムの試験導入により、本システムが建設業の直面する複合的な課題に対して極めて有効であることが確認された。

(1) 本取組がもたらす多角的な効果の総括

具体的には、以下の確かな効果が確認された。

a) 作業効率と安全性の飛躍的向上

正確な位置情報に基づくナビゲーションにより、従来多くの時間と労力を要していた作業が大幅に効率化され、同時に危険箇所の回避による安全性の向上が実現した。

b) 担い手の確保

長年の経験と勘に頼らざるを得なかった高度な作業が、経験の浅い作業員でも正確かつ安全に実施可能となり、除雪作業における「担い手の確保」に大きく貢献できる可能性が示された。

c) 働き方改革の推進

作業時間の短縮は、作業員の負担軽減と週休2日の実現につながり、建設業界における喫緊の課題である働き方改革を具体的に推進する効果が確認された。

d) 「コスト削減」への貢献

作業効率の向上に伴う機械稼働時間の短縮や、従来大量に必要であった指標木の大幅な削減は、直接的なコスト削減効果も期待される。

(2) 除雪DXによる「i-Construction」の推進

これらの効果は、「i-Construction」が目指す建設現場の生産性の向上や業務の効率化に合致するものであり、除雪という特殊な分野においても建設DX（デジタルトランスフォーメーション）が力強い推進力となることを示している。

また、本取組は、単一の作業改善にとどまらず、建設業界全体のデジタル変革と持続可能性に貢献し、建設業界が直面する高齢化や担い手不足といった構造的な課題に対して、技術を活用した実践的な解決策となり得ると期待される。

(3) 今後の展開

今後は、この試験導入の結果を基に、本路線に隣接する一般県道八幡平公園線（通称「八幡平樹海ライン」）の冬期通行止め区間（約16km）においても本システムの導入を積極的に進めていきたい。

さらに、県内全域への導入拡大につながるよう、岩手県における除雪分野の建設DXを推進し、安全で効率的、そして魅力ある建設業の未来を切り拓いていきたい。

6. 終わりに

本取組が、同様の課題を抱える全国の豪雪地帯における除雪作業の革新、そして建設業界全体の魅力向上につながる一助となれば幸いである。



写真-9 アスピーテライン山頂付近の除雪状況 (R7.4.9撮影)

岩手県から石川県への職員派遣 ～令和6年能登半島地震の被害からの復旧・復興～

県土整備企画室

岩手県県土整備部から、令和6年能登半島地震で大きな被害のあった石川県に派遣している職員が、復旧・復興事業に従事しています。

令和7年度派遣先：石川県奥能登土木総合事務所・能登町役場

～ 担当している現場を前に ～



能登町道小木志ノ瀬1号線

…海に面した道路が崩落。令和6年奥能登豪雨により二重被災



能登町道1級宇出津8号線 …トンネル坑口上の斜面が崩落し通行止め

※ 県土整備部からは、秋田県豪雨災害復旧事業の応援として、秋田県に職員を派遣しています。

令和7年度

県土整備部親睦サッカー大会を開催しました！

令和7年度岩手県県土整備部親睦サッカー大会事務局

岩手県県土整備部では、職員の健康増進及び親睦を深めるため、毎年有志でサッカー大会を開催しています。今年は、令和7年11月8日に花巻市スポーツキャンプむらで行われ、約90名の職員が選手・応援で参加し、汗を流しました。



計4チームに分かれ、白熱した試合を繰り広げました。好プレーには参加者から声援や拍手が送られ、試合の合間には集まって談笑するなど、終始和やかな雰囲気での親睦をより深める場となりました。



得点が決まるとハイタッチ



優勝チームには、
伝統あるトロフィーを授与



岩手県県土整備部は、今後も、明るく生き生きとした職場づくりに取り組んでいきます！